



文・圖——常本照樹（愛努民族文化財團理事長）
譯者——胡家齊
文責・圖——常本照樹（アイヌ民族文化財團理事長）
訳者——胡家齊

「認識愛努族」の連載を振り返って
A Retrospect on the 'Knowing Aynu' Column

「認識愛努族」的連載回顧

本誌原がアイヌ民族について初めて本格的に取り上げたのは、3周年記念号である18号の「アイヌ特集」であったが、さらに2017年73号から2020年95号までの4年間にわたった「認識愛努族」の連載によって、台湾におけるアイヌ民族に関する理解は一段と深まったといえよう。このような機会を与えてくださった林修澈、黄季平両先生、そして原教界編集スタッフの皆様に、あらためて厚く御礼を申し上げます。

關於本刊物中首次正式提及愛努族，是在3週年紀念版的第18期的「愛努特集」，之後更是從2017年第73期開始至2020年第95期，經由這4年間連載的「認識愛努族」，讓台灣能更深入地理解愛努族相關諸事。在此向給予我們這個機會的林修澈老師、黃季平老師，以及原教界編輯的各位，致上最深刻的感謝。



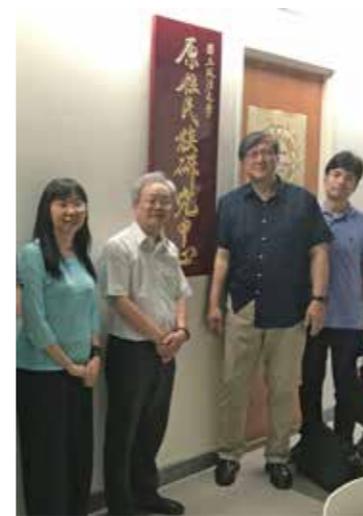
《原教界》第18期以「愛努的民族發展」為主題，對於推動台日學術合作有莫大的進展。

寄稿者の背景紹介

外国の先住民族について、これだけ集中的に紹介したのは、創刊以来100号を数える本誌としても初めてのことはないかと思う。その経緯と背景については95号の拙稿をご覧くださいこととして、本稿では、連載寄稿者のエピソードなどをご紹介しますこと、この連載の持つ意義の一端を振り返ることにしたい。

撰稿者の背景紹介

我想自創刊至第100期的刊物當中，關於外國的原住民，能以如此集中方式介紹的，應該這也是首次的創舉吧。關於當時的經緯及背景，請大家可以閱讀在下於第95期的文稿，在本文中，想藉由介紹連載撰稿者的片段背景等，以回顧該連載系列具有的部分特別意義。



政大中心で林老師、黃老師、落合准教授とともに。北海道原民中心の林老師、黃老師與落合副教授。



北大センター設立10周年記念シンポジウムにて（左から5人目が山崎准教授、7人目が北原准教授、右から2人目が中井君）。北海道大學愛努・先住民研究中心設立10週年紀念座談會（左起第5位為山崎副教授、第7位為北原副教授，右起第2位為中井先生）。





連載の第1回を担ったのは、アイヌ・先住民研究センターの北原次郎太准教授であった。北原准教授は、北海道大学においては、アイヌ語研究の権威として高名な知里真志保博士（北大在職は1949-61年）に続く2人目のアイヌ出身教員であり、記念すべき連載のスタートを飾るのにこれ以上相応しい研究者はいなかったといえる。現在でも、アイヌ民族について、自分のこととして、かつ広い視野から語ることができる研究者として大活躍を続けている。

「認識愛努族」，讓台灣能更深入地理解愛努族相關諸事。



負責第1次連載的是愛努・先住民研究中心的北原次郎太副教授。北原副教授是繼以愛努語研究權威著名的知里真志保博士（於1949-61年任職北海道大學）之後，北海道大學第二位愛努出身的教員，在這個值得紀念的連載系列起始點上，沒有比他更適合的研究人員了。他以其自身，並作為能從廣闊的視野角度談論愛努族的研究者來呈現，即使是現在仍是積極地活躍於其中。

第3回は山崎幸治准教授が担当した。2007年に北大センターが発足したときのメンバーは、センター長であった筆者と山崎助教（当時）の2人だけであり、センターの歴史は山崎准教授の歴史であるとも言える。2013年に平取町二風谷のアイヌ民族の木彫と織物が、経済産業省により北海道で初めての伝統的工芸品として指定されたのは、彼の調査によるところが大きい。連載原稿には、アイヌの物質文化に関する彼の実践的研究の成果が反映されている。

研究與實踐

第3次擔綱的是山崎幸治副教授。是2007年北海道大學中心成立時的成員，當時只有中心主任的我與山崎助教（當時）2人，所以中心的歷史也可以說是山崎副教授的歷史。2013年平取町二風谷的愛努族的木雕和織物，經由經濟產業省，首次在北海道將其指定為傳統工藝品，其中與山崎老師的調查有很大的關連。連載文稿中，反映了他在愛努物質文化上實踐的研究成果。

次に注目すべき寄稿者は、第6回を担当した中井貴規君であろう。北大センターの事務職員の1人は、代々アイヌの若者を採用してきたが、彼もその1人であった。その後、アイヌ文化振興・研究推進機構（アイヌ民族文化財団の前身）が実施していた伝承者育成事業（アイヌの若者達を選抜し、アイヌ文化の知識



二風谷で伝統的工芸品のattusを織る様子を視察するIcyang・Parod主任委員。Icyang・Parod主任委員在二風谷參觀傳統工藝品attus的編織。

接下來應該加以矚目的是負責第6次撰稿的中井貴規。北海道大學事務職員中有1人，歷年都會持續錄用愛努年輕人，而他就是其中之一。之後成為愛努文化振興・研究推進機構（愛努族文化財團的前身）施行的傳承者育成事業（選拔愛努族的年



《原教界》第73期開啓「認識愛努族」專欄，由北海道愛努・先住民研究中心規劃提供文章，讓讀者深度接觸愛努文化。

7副
左何余利吳呂宋尾希改李杜汪沈沙合員那里阮



江儀梅 第98期
江濰帆 第49期
江櫻梅 第41期



竹内涉 第18期
西岡敏 第57期



佐藤幸雄 第18期
何光明 Bazaï・Qalavangan 第48,63,64,89期
何卓飛 第7期
何采盈 第98期
何信翰 第75,89,90期
何智堯 第30期
何福田 第1,60期
何鳳美 Nuai Giring 第62,69期



何德隆 第21期
余友良 第40期
余帆 第85,89,99期
余佳穎 第37,40期
余明旂 Semuenuq Palajumaq 第65期
余林娟萱 第93期
余桂榕 Balalavi Adus 第26,29,31期
余榮德 Tiang Istasipal, Takbanuaz 第28,30,33,37,45,52,50,54,69,99期



余錦福 第19期
余歡倫 第59期
利格拉樂・阿媽 第42期
吳中益 第73,79,84,93期
吳元和 Haya Tomo 第50期
吳天泰 第20期
吳正成 第25期
吳忻怡 第97期
吳秀慈 第59期
吳伯祿 第30期
吳佳霓 第65期



吳宗憲 第70期
吳宛憶 第35期
吳明仁 第96期
吳明義 Namoh Rata 第42,52,54,55期
吳明灝 第7期
吳秉謙 第35期
吳芝嫻 第17期
吳阿金 Dawa Lisin 第25期
吳雨蓉 第64期
吳勁毅 第97期
吳思華 第60期



Upopoy的全景。
Upopoy的全景。



アイヌ民族文化財団理事長としてUpopoyの開
幕式典で挨拶。
愛努民族文化財団理事長於Upopoy開幕式典禮
上致詞。

や技術を身につけさせるプログラム)の第3期生として2014年から3年間の研修を受けた。彼の原稿はそのときの経験を記したものであり、アイヌ自身による文化伝承の実践の記録としても貴重である。彼は、現在、ウポポイの国立アイヌ民族博物館の研究担当職員として活躍している。

今後在廣義的原住民文化實踐的立場上，藉由「原教界」雜誌學習台灣原住民各式活動之同時，也希望日後還能有機會再次將我們致力中的愛努民族新面貌介紹給大家。



輕人，使其學習愛努文化知識及技術的專案計劃)第3期的成員，從2014年開始接受為期3年的研修。他的文稿十分珍貴地記錄了當時的經驗，藉由愛努族身份的自己，記錄下文化傳承的實踐。現在他活躍在UPOPOY(民族共生象徵空間)國立愛努民族博物館，擔任研究人員。

結論

「認識愛努族」の連載は2020年に終了したが、その年の3月に、筆者も北海道大学における勤務を終了した。現在は、ウポポイの運営を含むアイヌ文化の振興のために日本政府が設置したアイヌ民族文化財団の理事長として、アイヌ文化の復興とアイヌ民族の社会的地位の向上を目指す活動の最前線に立っている。これからは、先住民族の広い意味での文化振興を實踐する立場から、「原教界」誌を通じて台湾原住民族の様々な活動を学んでいくとともに、再びアイヌ民族の新たな取組を紹介できる機会が来ることを願っている。◆

結語

「認識愛努族」の連載，在2020年完全結束了，同年3月我也結束了北海道大學的職務。現在就任於日本政府為振興愛努文化並包含UPOPOY營運所設置的愛努民族文化團財的理事長一職，立於最前線地以復興愛努文化與提升愛努民族社會地位為目標而努力。今後在廣義的原住民文化實踐的立場上，藉由「原教界」雜誌學習台灣原住民各式活動之同時，也希望日後還能有機會再次將我們致力中的愛努民族新面貌介紹給大家。◆

常本照樹

TSUNEMOTO Teruki

1955年，日本北海道岩見沢市生まれ。北海道大学大学院博士課程修了。北海道大学教授、法学部長、アイヌ・先住民研究センター長などを経て、2020年3月北海道大学退職、現在同大学名誉教授、公益財団法人アイヌ民族文化財団理事長。



常本照樹

TSUNEMOTO Teruki

日本北海道岩見沢市人，1955年生。北海道大學大学院博士。曾任北海道大學教授、該校法學院院長及愛努先住民研究中心主任，於2020年3月退休。現任北海道大學名譽教授及公益財團法人愛努民族文化財團理事長。

